長商同窓会報

発行者
長商同窓会
長野市妻科243
TEL（232）5870
長野商業高校内
発行責任者　小林勝彦

同窓会を含めて「学校」
――卒業生のつながりが、学校の未来を支える

同窓会長　小林 勝彦（高24回）

学校を離れて暫く歳月を経るうちに、誰もが若い頃のみずみずしい感性では受け止めきれなかった出来事や、苦しかった想いが、次第に実感として薄れていくものです。けれど、あの頃の問題は確かに切実で、とても乗り越えられそうにないものだったり、どうにもならないモヤモヤだったりしたはずです。

それでも不思議と、力になってくれる人が現れたり、また違う苦しさを抱える人の存在に気づいたり――そこには、私たちを支えてくれる環境がたしかにあったのだと思います。

けれど大人になると、そうした環境のありがたさを、あらためて思い返すことはあまりありません。誰もが「自分ひとりで大きくなったような顔をして」生きているものです。それはある意味で“たくましさ”であり、そう思えること自体が、環境の恩恵なのかもしれません。

この“たくましさ”を手に入れる場が、学校という環境です。けれども今、学校が若い人にとって「耐えがたい苦しさの原因のひとつ」とされることがあるのは、どうしたことでしょうか。

同窓会のお役目をいただいて以来、卒業生の方々と接する機会も多くなりましたが、そこであらためて確認しているのは、私自身が以前から自然に感じてきたこと――つまり、学校にとって、同窓会の存在は本来、若い世代の成長を支える環境の一部である、ということです。

長商は県立高校ですが、設置者の県との間に距離があると感じることも少なくありません。こうしたなかで、同窓会が若者の育つ現場とつながっていることの重みを、もっと明確にしていく必要があると、私は考えています。

長商は、実業に根ざした学びを大切にしてきた学校です。その卒業生たちが歩んできた道のりは多種多様であり、そこには後進たちにとっての人生のモデルが無数に存在しています。それぞれが自分の場で、仕事や暮らしを誠実に積み重ねていくこと――それ自体が、次の世代の学びと成長の環境をかたちづくっているのだと、あらためて思います。

そう考えるとき、「同窓会を含めての学校」という見方が、自然に浮かび上がってくるのです。少子化の時代に入り、学校の存在があらためて問われている今、同窓会の営みには、世代を超えて受け継がれるべき意味も可能性もあります。自分の存在を模索し続ける若い人たちを支える環境――そこに私たちがいる、そう信じています。

ごあいさつ
「心は高く、身は低く」

学校長　加藤 泰久

同窓会の皆さまには、日頃より本校へのご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

私は今年４月より校長を拝命いたしました加藤泰久と申します。長商は２回目の赴任で、前回は平成７年から14年までの８年間勤めました。この間、本校創立100周年や野球部の春の選抜出場、長野オリンピックなど、普通ではなかなかない経験をさせていただき、今の私の礎になっています。その長商に再び赴任できたことは大変光栄であり、同時に重責に身が引き締まる思いでございます。長商の充実発展のために全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

先日６月11日は125回目の開校記念日でした。12日には同窓会記念講演会を現役生徒向けに開催し、今回は塚田壮一朗（第60回卒）様にご講演いただきました。塚田様は、東京で企業のＭ＆Ａを扱う会社をお仲間と創業しそのCOOをお務めの方で、ビジネスの最前線でご活躍されている立場から、後継者不足や少子化による日本経済の危機的状況や、ビジネスの世界で簿記が必要不可欠な言語であること、また自分の好きなことを大切にしながら生きる道を選択していくキャリアという考え方などをお話しいただきました。また塚田さんの長商時代の先輩後輩にも来ていただき、パネルディスカッションやレゲエライブで大変盛り上がりました。生徒たちにとっても記憶に残る有意義な時間となりました。このような機会を提供いただきました同窓会の皆さまに感謝申し上げます。

令和７年度がはじまり、生徒たちは日々の学習・部活動に非常に活発に活動しております。春の高校総体では、男子バドミントン部、女子ソフトボール部は県大会で優勝、卓球部は個人で上位入賞しそれぞれインターハイ出場を決めました。また、剣道部、ソフトテニス部、陸上部は北信越大会に出場します。文化部においては、長野県商業総合競技大会で簿記部、珠算部、ワープロ部、コンピューター部が全国大会への切符を手にいたしました。また全国大会11連覇中のチアリーディング部は、今年も地区予選を突破し、いよいよ全国大会12連覇に挑みます。これら生徒の活躍は、生徒の努力はもちろん、指導にあたる教職員、支えてくださる同窓会の皆さまのご支援あっての成果と考えております。

そして、野球部の活躍は私たちに大きな感動と誇りを与えてくれました。第152回北信越地区高校野球大会において、39年ぶりとなる県大会優勝、2001年以来の北信越大会準優

勝という素晴らしい成績を収めました。このことも同窓会の皆様をはじめ野球部OB会、その他の皆様のご支援あっての結果です。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。夏の大会も活躍が期待されましたが、強豪私立に阻まれ3回戦で敗退となりました。想いは後輩に引き継がれ、これからも夢への挑戦が続きます。今後も皆様のご理解とご支援、応援をよろしくお願いいたします。

本校の伝統行事であります「長商デパート大売出し」は今年で101回目となります。昨年の100回では同窓生の皆様に大変盛り上げていただきました。ありがとうございました。次の100年に向けた新たな一歩として、生徒たちはより一層創意工夫を凝らし、地域とともに学ぶ姿勢を大切にして準備を進めております。同窓生の皆様にはぜひご来場いただきご指導を賜りたく存じます。

これからも本校は、長商魂ともいうべき「心は高く、身は低く」の精神のもと、地域や社会に貢献できる人材の育成に努めてまいります。同窓生の皆さまには、引き続き母校への温かいご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

野球＝感謝

長商野球部OB会長
石田 三知夫（高31回）

私が本格的に野球を始めたのは長野商業高校野球部からで、当時は地元（長野）の伝統校でしたが長らく低迷しており、私も結果的に最後の夏の県予選では、開会式直後の試合で敗戦（松本県ヶ丘に3対6）し、長野県で一番早く姿を消してしまいました。

3年間、平野監督にご指導を賜りましたが、監督の高い技術指導についていけず、「汗と涙の高校野球」、「人生の大きな1ページ」、「厳しい練習に耐えた3年間」などのフレーズがない、正直、残念で中途半端な高校野球生活であり、負けた悔しさよりもやり切れなかった後悔が「原点」だったと思います。

卒業前の進路を決める際に硬式ボールに未練があった私は、法政大学（平野監督の母校）や地元の社会人野球チーム（当時の電電信越野球部）のセレクションに参加させていただきました。地元選手を採用してほしいという周りの高校野球部監督の方からの後押しもあり、ノンプロ（社会人野球）で硬式野球を継続することが叶いました。

社会人野球の退部後は、母校コーチも務めさせていただき、息子が中学生になったのを契機として、土日は地域の中学生軟式クラブでコーチ・監督として28年間、野球人生を継続しています。

また、3年前より、母校野球部（約900名の会員）OB会長を務めさせていただいており、価値観の多様性により何が正解かわからない時代でありますが、母校への想いだけは変わらずにOB会員の皆様やご支援くださる方々のお力を借りながら「感謝」を忘れず、現場支援など母校のために少しでも力になれればと活動しています。

～今年は残念でしたが、近い将来、母校野球部の甲子園出場に胸を高鳴らせながら～

長野県長野商業高等学校は今年創立125年を迎えました。そして卒業生は今年3月ご卒業の210名(高77回)を加えて、全日制、定時制あわせて合計28,275名となりました。長商同窓会報第52号は、ご卒業から区切りの年（60年、50年、40年、30年、10年）を迎えた同窓会員の皆様に、在学当時の思い出や現況について執筆をお願いしました。

卒業から60年

ウサギ跳びの3年間、夢叶わず

島田 忠次（高17回）

「長商健児・凱歌・秀峰旭山・・」我が青春のキーワード。第17回（昭和40年）卒、就職列車で上京後60年、光陰矢の如し。

長商生のスタートは応援練習から、授業終了後直ちにグランドへ、正座に中腰、応援団員が近づくと妙な緊張。恩師、長商デパート、不肖第11期生徒会長など思い出は種々あるが、籠球部（当時バスケット部とは言わず）での3年間のウサギ跳びが頭抜けか。当時、籠球部は強豪校でインターハイ常連校、練習は伝統校らしくハード、かつ根性論。終業のベルと同時に体育館直行（上級生に遅れようものなら正座、叱責）猛練習開始。オフ時の納骨堂七曲り坂のウサギ跳び登り、上田までの持久力強化マラソン。練習中水は厳禁、坊主頭には強烈な陽射し、倒れなかったのが不思議。最終目標、インターハイ出場を賭けた県大会準決勝は宿敵吉田高校、残り45秒2点リード、しかもマイボール。しかし結果は69－71と逆転負け。この悔しさは終生忘れ得ず。この無念さを心の糧とし、練習で培った不屈の精神で走り続けた我が人生。バスケ仲間の一人は泉下の人に（合掌）、他の老ウサギは健在、良き友に恵まれ感謝。

「長商」は我が原点、目前には80歳の高い壁、冥途の土産に聞きたし甲子園の「仰げ若人 旭山…」。

長商籠球部

卒業から60年

長商は私のすべての本源です

中沢 雄三（高17回）

「1985年７月26日午後５時頃、長野市上松の地附山東南斜面で、地滑りが発生。老人ホーム松寿荘で26人が死亡し、湯谷団地の住宅64棟が全半壊した。」
と今年６月28日の信濃毎日新聞に書いてありました。

実は私の恩師、牧野昌泰先生のご自宅がその中にあったのです。

湯谷小学校に避難した牧野先生の安否を気遣った教え子たちが、次から次へと体育館に集まり、その数は何百人にも及んだと記憶しています。

そして先生を取り囲んだ教え子たちの口から、“俺の家が空いているから使ってください。”という声が体育館中に響き渡りました。

在学当時、私は定時制のグータラな生徒でしたので、留年して牧野先生担任のクラスになりました。

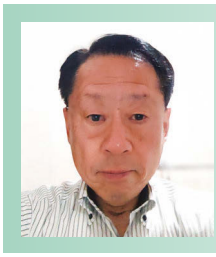
先生から「至誠天に通じる」、何事も誠をつくせと指導を受けました。

熱い思いで生徒を指導する恩師の姿は、私の目を覚まさせてくださいました。

現在は長野市の中央通りで、宴会、弁当、仕出し業を営んでいます。

卒業から60年、80歳の今でも長商と恩師との出会いは、決して忘れられない私の宝であり、私のすべての本源です。

ありがとうございました。感謝。



卒業から50年

合言葉は「元気なうちは会って皆で楽しもう」

片桐 敬喜（高27回）

長商同窓会関東支部の当番幹事を引き受けたのが今から23年前でした。

当時何とか声掛けをして14名が集まり、無事に幹事の役割を成し遂げました。

実はその集まったメンバー（関東在住者）を中心に、その後声を掛けあい「暑気払い」「忘年会または新年会」「旅行会」を続けていくことになり、都合「旅行会」は６回（８名～３名参加）、「日帰りハイキング」２回、「暑気払い」「忘年会または新年会」は適宜行っています。

毎年すべてを実施するのは難しいですが何かしら年１回は開催してきました。

コロナ禍は、どちらも出来ずに「じーっと我慢」でしたがコロナ５類以降はまたどちらも再開している今日この頃です。

さてこんな形で会っている私たち（元気なじじ・ばば達）の合言葉は「元気なうちは会って皆で楽しもう」です。

会えば、長商在学中の部活や、各類型に分かれての授業での話で、当時は皆との接点は薄かったのですが、今は皆丸くなった印象でたわいもない話で盛り上がって楽しんでいます。

元気なうちはまだまだ続きそうです。さて、また何か企画しましょうね。

この「合言葉」に賛同される方々のご参加をお待ちしています。

卒業から40年

夢の甲子園

傳田 誠（高37回）

私は在学中、硬式野球部に所属していました。

卒業して40年を迎え、当時を振り返ってみますと、厳しい練習漬けの日々と、目標であったあこがれの甲子園に出場できたことが一番の思い出として残っています。

昭和58年夏、第65回長野大会は３回戦で優勝候補の天竜光洋高校（現・松川高校）に勝ち決勝は飯田高校に延長10回　２対１で勝利し、44年ぶり８回目の夏の甲子園出場を決めました。

優勝の瞬間は、歓喜にあふれ皆で抱き合い、応援団の皆さんに挨拶をした時、いろいろな思いが込み上げ涙が止まりませんでした。

甲子園での試合は、開会式当日の第２試合。沖縄代表の興南高校に延長10回　１対２でサヨナラ負け。校歌は歌えなかったですが、５千人を超える大応援団の中、試合を行い、貴重な経験と幸せな時間を過ごすことができました。また、パネル式スコアボードはこの大会が最後ということで、記憶に残る大会でした。

大会では、OBの皆様方が練習場所を確保してくださったり、大勢の方々にご支援いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

また監督の大谷孫二郎先生の指導を受けられたことは、とても幸せでした。

野球を通して、何事も準備が大事であること、先を読んで行動することの大切さなど多くのことを学ばせていただきました。

厳しくも温かいご指導を心から感謝いたしております。

自分の人生において野球との出会いは、とても大きなものであったと感じております。

最後に、これからも母校のご活躍を楽しみにしています。

卒業から40年

挑戦する習慣

竹内（花形）正美（高37回）

このたび、長野商業高校同窓会会報への寄稿の機会をいただき、心より感謝申し上げます。

現在、私は長野県議会議員として2期目を務めており、地元・千曲市と坂城町をはじめ、県内各地の声を県政に届けるべく日々活動しております。観光振興や産業支援、少子化対策など多岐にわたる課題に向き合う中で、ふと母校での学びや仲間との日々が、私の原点であると実感することがあります。

特に印象深いのは、高校2年生の夏、野球部が甲子園出場を果たし、応援団の一員として仲間と声を張り上げたことです。灼熱のスタンドで流した汗と涙は、今も鮮明に心に残っています。

また、高校時代に資格取得に挑戦する習慣を身につけさせていただきました。常に挑戦し続けることは自己肯定感を高めます。挑戦には勇気が必要です。でも、小さな挑戦を続けてきた事で、大きな挑戦ができる自分を作れたような気がします。

在校生の皆さんには、今ある日常の一つひとつが、将来の糧となることを信じて、勉学や部活動、仲間との交流に全力で向き合っていただきたいと思います。これからの長商を担う皆さんの挑戦と成長を、同窓の一人として心より応援しています。

卒業から30年

「心は高く、身は低く」
― 長野商業高校で得たもの

黒岩（香山）千子（高47回）

長野商業高校で過ごした3年間は、私の人生の礎になっています。

「心は高く、身は低く」――この校訓は、今も私の中に生き続けています。努力を惜しまない心、人とのご縁を大切にする姿勢、人並み以上の根性。すべてが、長商での経験から育まれました。

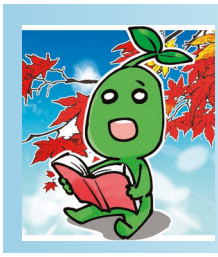
当時の長商柔道部の顧問の先生に誘われて入学し、商業科で学びながら厳しい練習に励みました。日商簿記2級も取得し、在学中はインターハイ団体戦に出場。個人戦では全国大会5位入賞という結果も残すことができました。

高校卒業後は、柔道の名門大学の柔道部に進みました。思うように結果が出ず苦しい時期もありましたが、「人の三倍努力する」ことの大切さを学びました。

大学卒業後は地元・長野に戻り、実家の総合衣料品店「ファッションパークカヤマ」で働いています。保育園お昼寝布団の手作り販売や、シニア向け衣料のネット通販など、時代に合わせた挑戦を続けています。

高校時代に身につけた努力の姿勢と、商業科で得た知識が、今も私の背中を押してくれています。

これからも、地元の皆さまに頼りにしていただけるお店であり続けられるよう、長商で育ててもらった心を大切に歩んでいきます。



卒業から30年

高校生の頃は この仕事をするとは 思ってもみませんでした 人生って不思議

からけみ（高47回）

私は今、漫画を描く仕事をしています。

企業さんからの依頼で漫画やイラストなど描くこともあります。高校時代、美術部の仲間だった友人と一緒にあこがれた仕事です。

趣味で描いていた時代、プロとして仕事を得るために頑張った時代、連載をなんとか続けてきた時代…と、様々な坂道を今日までなんとか走ってきました。

どんな時代でも嬉しいこと悲しいことを共有できる、切磋琢磨してきた仲間たちの存在が私にとって大切な財産だと思います。今も凄く勉強になっています。

今の仕事をしていると時々大きな山を登っている、そんな気持ちになることがあります。

ふと周りを見ると同じように別の山を登っている作家さんたちがいます。大変そうだなとか、楽しそうだな私も頑張ろう！なんて思います。

登る山はその人が決めた仕事。装備はその人の人生そのもの。だから山の規模も装備も人それぞれ。作家たちは皆魂を削って描いている。頑張ろう。今までそんな風に考えてきました。

月並みなことを言いますが、良いことも辛いことも人生には半分ずつ。やったこと言ったことは誰もが巡って全て自分自身に返ってくること。このことを忘れず楽しく描いていきたいと思います。

「からけみ」さんは本文の中で漫画家であることを公表しておりますので、「からけみ」さんの安全と出版社との申し合わせ事項を考慮し、ペンネームでの執筆となりましたこと、ご理解をお願いいたします。

第101回長商デパート大売出し〔10月24日(金)～10月26日(日)〕期間中、同窓会館2Ｆで、「からけみ」作品展を開催しますので、皆様のご来場をお待ちしております。

卒業から10年

卒業から10年を迎えて

島田（小林）菜子（高67回）

高校を卒業して10年が経ちました。長かったような、あっという間だったような……ただ30代目前という現実には、まだ少し戸惑いもあります。

振り返れば、学生生活で最も充実していたのは高校の３年間でした。笑いの絶えなかった３年２組、時にはぶつかり支え合いながら共に成長した生徒会執行部、長期間の準備を重ね、無事成功した長商デパート。クラスや学年を越えた交流が多く、行事ごとに全力で取り組んだ日々は、まさに青春そのものでした。

勝ち負けに涙を流したクラスマッチや文化祭も、今思い返すと少し照れくさいけれど、それほど真剣に向き合っていた証。そんな空気が当たり前にあったのも、何事にも全力で取り組む長商生らしさだったと感じます。

今でも定期的に集まる仲間たちとは、久しぶりでもすぐに昔の空気に戻れます。毎回同じ話してるねと言いつつも、それが心地よくて、歩んできた道も、今の暮らしもそれぞれ違うけれど、変わらずに笑い合える仲間がいることを本当に幸せに思います。

最近ようやく仕事も楽しいと感じられるようになり、少しずつ心に余裕が出てきました。これからは新しい挑戦も楽しみながら、「心は高く、身は低く」の精神を忘れず日々を過ごしていきたいと思います。

どんな時もそばにいてくれる周りの方々のおかげで、今の自分があります。これからも感謝の気持ちを胸に歩んでいきたいです。

卒業から10年

全ての出来事には意味がある

星野 由衣（高67回）

執筆を頼まれた理由が何かあるのか、それともただの偶然なのか分かりませんが、自分自身を振り返る機会をいただけたことに感謝しています。「卒業して10年」と聞いて、納得すると同時に、少し焦りのようなものも感じました。18歳のときに思い描いていた「10年後の自分」と、今の自分は少し違う気がするからです。

私は今、オーストラリアのシドニーに住み、ローカル企業で会計関連の仕事をして３年ほどになります。大学を終え、就職し、健康で快適な暮らしができています。でも、今の自分に満足しているかと聞かれると、正直そうではありません。振り返ってみれば、高校卒業後にやりたいことが分からず、何となく就職して、努力もせずに友達と遊んで、生産性のない日々を送っていた時期がありました。でもそんな経験も、今となっては必要だったと思えます。28歳の今でも人生模索中の私にとって、18歳で将来の人生を決めるのはおそらく不可能でした。

あの頃の私は、今よりもっと繊細で、流されやすく、扱いにくい人間でした。だからこそ、人を傷つけてしまったこともあったし、友達を失いかけたこともありました。でも、その友達とは今でも一緒に海外旅行に行くほど仲が良く、日本に帰る時には必ず会っています。その経験があったからこそ、友達をより大切にできるようになったと思います。オーストラリア生活を経験した今、日本で挑戦してみたいこともあります。

結局のところ、私が伝えたいのは「すべての出来事には意味がある」ということです。家族で引っ越す機会や、英語を学ぶ環境を与えてくれた両親のおかげで、卒業後の選択肢が広がりました。

やりたいことが見つからなくて焦っても仕方ないし、他人と比べても意味がない。全てはなるようになるし、どんな出来事にも理由がある。18歳の自分に、そして今同じように迷っている18歳の誰かに、そう伝えてあげたいです。

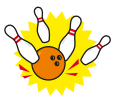
定時制だより

定時制教頭　島崎 剛

３月に14名の卒業生を送り出し、４月には18名の新入生を迎えて、令和７年度がスタートしました。定時制では、新入生の学年行事として長野市内の散策を実施し、善光寺への参拝や県立美術館でのジブリ展鑑賞、パティオ大門でのランチタイムなど、新しい仲間と交流を深める良い機会となりました。参加した生徒からは、「とても楽しかった」「参加を少しためらっていたけれど、みんなと一緒に行けて良かった」などの感想が寄せられました。

また体育大会として、ヤングファラオでボウリング大会を行い、各レーンからは笑い声や歓声が響き渡るなど、大変盛り上がりました。「仲間ともっと関われる学校行事を増やしてほしい」といった意見も出され、生徒同士の関わりを大切にしたいという思いが伝わってきました。

学校生活を通して、生徒たちは仲間との関係を築き、共同で活動する中で、これまで経験したことのないことに挑戦しながら、少しずつ仲間の大切さやありがたさを実感しているように感じます。このような生徒たちの様子を見ていると、以前よりも定時制全体が明るくなり、和やかな雰囲気が広がってきたように思います。今後も、こうした雰囲気や生徒たちの成長が継続していけるような学校づくりを目指していきたいと考えております。



第101回 長商デパート大売出し「繋げ！ 101年目のおもてなし」

第75代社長（第101回）
滝澤 玲央奈（3年）

昨年の長商デパート大売出しでは、売上額約3,000万円に上り、お客様も16,702人来場いただきました。

今年10月24日（金）から10月26日（日）の3日間で開催される第101回長商デパート大売出しも、社員全員で協力し、101回目の大売出しにふさわしいデパートとして成功させたいと思います。

今年の長商デパートにおける基本方針は、例年同様「長商生の笑顔とまごころで創る日本一のデパート」です。

そして、今年のモットーは、「繋げ！ 101年目のおもてなし」、更にサブタイトルに「100年間の歴史をつなぐ新しい長商デパート」を掲げました。

このモットーやサブタイトルは、これまでの歴史ある長商デパートを新しい1年へと繋ぎ、一人一人が心のこもったおもてなしをしようという意味があります。このモットーを中心に社員全員で101回長商デパートを成功させられるように頑張ります。

売り上げ目標は、これから各売場の仕事内容が確定した時点で決定しますが、来場者数は昨年同様18,000人を目標としました。

どうぞ皆様日本一の長商デパート「第101回長商デパート大売出し」にお越しください。

第101回長商デパート大売出しポスター

第101回長商デパート大売出し営業案内

「第101回長商デパート」取締役・監査役の皆様です。

第101回長商デパート大売出しは、次の100年に向けて最初の一歩を踏み出します。

それぞれの時代に、幾多の困難を乗り越えたからこそ第101回の開催を迎えますが、今回はコロナに直面した「第96回長商デパート」社長に当時を振り返っていただきました。

コロナ禍の制約がある中、生徒間の販売、保護者へのドライブスルー販売、長野県庁出張販売等で乗り切り、翌年の長商デパート大売出しに繋げました。

ひたむき

第70代社長（第96回）
中野 櫻子（高73回）

「第96回長商デパートは開催ができないかもしれない。」

新型コロナウィルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されたとき、この言葉が重くのしかかったことを覚えています。様々な可能性が見えては崩れ、進んではまた戻ることの繰り返しでした。それでも「中止」という選択だけはしたくありませんでした。【この状況下だからこそ長商生にできることは何かを考える】をモットーに、新しい取り組みに挑戦しました。

今振り返ると、先生方や企業様、地域の方のエールはもちろんですが、何よりも初めてのことに全力で向き合い取り組んでくれた社員がいたから、第96回長商デパートが大成功に終わったと思っています。一人ひとりの思いがお客様にも伝わったのだと、強く実感しました。

私が長商デパートで得たものは、数えきれないほどあります。

どんなに考えても答えが見つからない不安。先が見えていないのに時間だけは進んでいく焦り。一緒に走ってくれる仲間がいた時の嬉しさ。そして、どんな状況であっても自分にできることは何かを考えて全力で進む気持ちがあれば、必ず素晴らしい結果と宝物がついてくることも学びました。

全てが今の私に繋がり、一生残る財産となっています。

これからデパートの開催を迎える生徒の皆さんには、長商生であることを誇りに思い、自ら積極的に参加し楽しむことを大切にしてほしいです。

これからも長商デパートがさらに発展していくことを、心から楽しみにしています。

長野県庁出張販売

金井周三先生の思い出

長野保健医療大学
共通教養センター長
奥村 信彦

長野商業高校に赴任したとき、金井先生はすでにご退職され、講師で我々とともに机を並べておられました。校長先生を務められた後もこうして授業をたくさん受け持たれ精力的に仕事をされているお姿に、当時30代半ばであった私は大いに感銘を受けました。細いお体でしたがお声は太く大きく、生徒と接し教えるのが楽しくてしかたがない、というご様子でした。

たまたま父に金井先生のことを話したところ、「金井先生とは長商で同級だ。優秀で素晴らしい人だからいろいろとしっかり教わってこい。」と言われ、金井先生にお話しすると「奥村君の息子さんか。お父さんは元気か。」と懐かしそうに当時のことを話してくださいました。父に伝えるとそれはもう大喜びでした。

４年ほど前に父が他界したときには先生から温かいお言葉をいただき御礼申し上げるとともに、先生にはいつまでもお元気でいていただきたいと切に願っておりました。

その後、いただいていた年賀状が途絶え、こちらの年賀状が戻ってくるようになりました。それでもきっとお元気でおられると信じていたのですが、２年前にお亡くなりになったと伺い、もう一度お目にかかりお話ししたかったと心から思うばかりです。

目を閉じると、少々涼しくてもお召しになっていた真っ白のワイシャツにネクタイの元気なお姿、そしてチョークを片手に大きな声で叱咤激励しながら授業をされていたお姿が目に浮かびます。本当に生徒を大切に愛されていました。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

金井周三先生は令和５年９月にお亡くなりになりました。その後、金井先生の所在について毎年数件の問合せがありますので、長商で一緒に教鞭をとられた奥村信彦様（平成２年４月～平成10年３月）に追悼文をお願いしました。

想い出の１枚写真

助手を務める生徒さんと

母校と共に

高橋 正和（高６回）

私が母校の卒業アルバムを手がけるようになったのは、昭和56（1981）年の入学生からでした。当時卒業アルバムはモノクロ写真が主流で、徐々にカラー化が進みました。またこの世界もアナログからデジタルにおき変わり、新たな知識と機材が必要となりました。44年間のアルバム写真の取材の中で記憶に残るのは、昭和58年８月大谷監督率いる第65回夏の甲子園出場、及び平成12年３月山寺監督率いる第72回春の選抜甲子園出場で、この年の開校100年に華を添えてくれたことです。

他のクラブ活動も活発で、県の上位進出やインターハイ出場クラブが多く、商業関係のクラブも全国大会出場の常連、これらの活躍は公立校としての誇りであり意義が大きいと思います。長商デパート、校内行事等尽きない想い出がありますが、生徒さんは外来者に対してしっかり挨拶し、好印象を与えてくれます。社会人になってからも役立つことでしょう。

私が手がけた卒業アルバム及び２度の甲子園出場の記録写真はアルバムに収め、同窓会館に保管されております。機会がありましたら同窓会館に歩を進めてください。

永きに亘り無事やってこられたのは、現役生徒さんが与えてくれた元気のお陰と、教職員のご理解とご協力の賜と思います。また、在学中から今日まで約70年関わった卓球部との縁は、公私とも大きな財産と思っております。

最後に、母校長商と同窓会の発展並びに同窓会会員のご健康を心から祈念いたします。

68年振り甲子園に校歌が響く
（平成12年３月選抜大会）

令和７年度 長野県高等学校総合体育大会

男子バドミントン　団体優勝　10連覇

女子ソフトボール　優勝　５連覇

- 第152回春季北信越地区高等学校野球長野県大会北信予選会：２季連続優勝
- 第152回春季北信越地区高等学校野球長野県大会：優勝（39年振り）
- 第152回春季北信越地区高等学校野球大会：準優勝（2001年以来）

凱歌　＝栄光の記録＝

長商同窓会総会開催

令和7年6月14日（土）にホテル国際21の芙蓉の間において、令和7年度長商同窓会総会を開催しました。総会に先立ち、永きに渡り卒業アルバムを制作してこられた高橋正和様に感謝状と記念品をお贈りしました。

総会では、令和6年度の事業報告、収支決算書の説明と監査報告があり、承認されました。続いて、令和7年度事業計画（案）、予算案(案)が審議され、承認されました。

懇親会は高35回当番幹事の石坂正志様が進行を務め、役員有志のよる長商木遣り、会員からの近況報告、プレゼント抽選会等和やかに親睦を深めることができました。最後に、当番幹事の石坂様から次回当番幹事の星沢様に法被が手渡され、全員で校歌を合唱してお開きとなりました。

長商同窓会　収支決算書
令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
（単位：円）

科目	決算額
Ⅰ．収入の部	
1．会費・入会金収入	
(1) 入会金収入	269,000
(2) 一般会員会費収入	2,143,000
(3) 準会員会費収入	1,809,000
2．雑収入	
(1) 受取利息	2,369
(2) 寄付金	421,500
(3) 雑収入	365,584
当期収入合計（A）	5,010,453
前期繰越収支差額	1,226,109
収入合計（B）	6,236,562
Ⅱ．支出の部	
1．事業費	
(1) 会報印刷発送費	452,086
(2) 総会・役員会費	197,406
(3) 支部活動助成費	252,180
(4) ホームページ、コピー機維持費	244,112
(5) メールバンク登録促進費	14,000
(6) 会員慶弔費	12,535
(7) 在校生記念品費	182,695
(8) 全国大会出場費補助	85,000
(9) 長商デバート100回記念費	141,728
(10) 学校施設整備費	0
2．管理費	
(1) 事務職員手当	1,554,800
(2) 福利厚生費	22,170
(3) 通信運搬費	178,015
(4) 消耗備品費	283,474
(5) 印刷製本費	55,142
(6) 光熱水料費	138,982
(7) 会館維持費	670,570
(8) 支払手数料	149,574
(9) 雑費	0
3．特定資産支出	
(1) 同窓会館維持積立金	▲458,143
(2) 財政調整積立金	0
(3) 同窓会報積立金	1,000,000
4．予備費	0
当期支出合計（C）	5,176,326
当期収支差額（A）－（C）	△165,873
次期繰越収支差額（B）－（C）	1,060,236

一般財団法人長商会　収支決算書
令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
（単位：円）

科目	決算額
Ⅰ．一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
(1) 経常収益	
①基本財産運用益	2,836
基本財産受取利息	2,836
②雑収入	50
受取利息	50
受講料	0
経常収益計	2,886
(2) 経常費用	
①事業費	1,240,460
商業教育振興費	10,000
印刷製本費	0
諸謝金	10,000
雑費	0
育英費	500,000
支払助成金	500,000
印刷製本費	0
高校教育振興費	530,460
支払負担金	51,400
大会出場補助費	210,000
長商デバート大売出し振興費	269,060
雑費	0
講演会費	200,000
旅費交通費	0
諸謝金	200,000
租税公課	0
雑費	0
②管理費	504,560
会議費	0
旅費交通費	0
委託料	360,000
租税公課	81,000
雑費	63,560
経常費用計	1,745,020
当期経常増減額	△1,742,134
2．予備費	0
当期一般正味財産増減額	△1,742,134
一般正味財産期首残高	15,896,008
一般正味財産期末残高	14,153,874
Ⅱ．正味財産期末残高	14,153,874

事務局だより

○同窓会年会費納入のお願い（年額3,000円）～PayPay、au PAY等での振込みができます～

同窓会は会員の皆さまからいただいた会費によって事業が成り立っております。年会費の納入にご協力ください。

年会費は、①ネットバンキングや銀行窓口からの振込み　②同封の振込み用紙によるゆうちょ銀行やコンビニエンスストアからの振込み　③スマートフォンアプリ（振込用紙の裏面を参照）による振込み等が可能です。

☆ネットバンキング（銀行振込）をご利用の会員の皆さまは、お名前（本人）と整理番号（または卒業年度、卒業回数）を必ずご記入ください。

☆ネットバンキング（銀行）振込み口座

八十二銀行　　本店営業部（210）
普通　３１５５９３　　長商同窓会
長野信用金庫　　本店営業部（088）
普通　１０６０６２　　長商同窓会

- 会費納入の自動振込手続きを済ませている会員の皆さまは、1月に引き落としとなりますので、通帳の残額をご確認ください。
- 会費納入は自動振込をご利用ください。（ゆうちょ銀行、八十二銀行、長野信用金庫）

○募金のお願い

☆同窓会館修繕募金（1口5,000円）

八十二銀行　　長野支店（211）
普通 ４９９６１２　長商同窓会館改築積立金

○会員情報の変更はお手数でも事務局までお知らせください。

- 改姓、転居、ご逝去等があった場合には、メールにて事務局まで連絡をお願いします。
- 同窓会ホームページ「お問合せ、住所変更他」もご利用できます。
- 電話での受付は、月曜と水曜の午後（12時～16時）対応しております。

○長商同窓会報53号の寄稿をお待ちしています。

- 高校時代のエピソードを200字以内にまとめ、思い出の写真とともにお送りください。（写真は返却いたします。）

○卒業アルバム寄贈のお願い

- 昭和15年（第37回）以前の卒業アルバムをお持ちで同窓会に寄贈いただける方がおられましたら、同窓会事務局までご一報をお願いします。

○令和8年度長商同窓会総会・懇親会について

令和8年6月13日（土）にホテル国際21において、総会・懇親会を予定しています。

- 卒業後2年（高75回）、10年（高68回）、20年（高58回）、30年（高48回）の会員の皆様の参加をお待ちしています。（懇親会費割引あり）
- 当番幹事は高36回（昭和59年3月卒業）になります。

○お知らせ

- メール登録された会員の皆様には、「マーキュリー通信」を毎月送信します。メール登録は同窓会事務局に直接メールを送っていただくか、同窓会ホームページ「お問合せ、住所変更他」をご利用ください。
- 各クラブの大会成績は、ホームページ「令和7年度大会結果」をご覧ください。
- 同窓会ホームページ「会員情報」は会員の皆様の掲示板です。同期会やイベント開催などの連絡にご活用ください。

https://chosho.com
E-mail: chosho10@mx1.avis.ne.jp
TEL 026-232-5870　FAX 026-217-0355